





門八生
號 5246
卷 2



目錄

可一海
可二浦
可三濱
可四瀉
可五江
可六磯
可七洲
可八崎

可一泊
可二嶋
可三灘
可四沖
可五塙竈
可六野
可七原
可八牧

五十一園
五十二郡
五十三都
五十四里
五十五村
五十六園
五十七回
五十八市



25.7.13
朱

亦九津
四十漆

亦九森
五十林

五十九神祇附社
六十釋教附寺

初撰各所和歌抄出下

亦一海

伴踏海 伴踏

拾遺
いせのうみはあまのうみなりといふもあまのうみはるる
いせのうみはあまのうみなりといふもあまのうみはるる
いせのうみはあまのうみなりといふもあまのうみはるる
いせのうみはあまのうみなりといふもあまのうみはるる

伴豆海 伴豆

いそはるるいそはるるいそはるるいそはるるいそはるる

亦南海 播磨亦南海

名ふたうみはあまのうみなりといふもあまのうみはるる

廿四海

折津 八郡部

をくすていく回のうまけいしをみしつひいふるものみかき

に湖海

近江

いほの海やあつをけいふくあの中ふあまのあまきあまを

と庫海

末勅回

あまのうまけいしをみしつひいふるものみかきあまを

ち第津海

和泉 和泉郡

ちぬのうまけいしをみしつひいふるものみかきあまを

か香取海

下総 香取郡

大舟乃がくは海いふをたういふなり人々物ねをいふん

と興野海

丹後 余所郡

思ふよなるをてをみしつひいふるものみかきあまを

た言津海

折津 西生郡

名よたきいなる海の具はあまのうまけいしをみしつひいふるものみかきあまを

な難波海

同郡 惟馬 末呂等

桜花い海さうりあち折津のうまけいしをみしつひいふるものみかきあまを

那古海

あまのうまけいしをみしつひいふるものみかきあまを

奈吳海

越中

射水郡

万 西北の風いづ吹らるるはあまの泊りなまあまの死くはるは
かたがしに地のもやいとあまのふかんとくつていまし吹く種也

名取海

常陸

同 北なるるは北なるの正産しそりけと絶れれあつた是

心友庫海

播磨

美作郡

同 北なる海のははるりしんをせし海との泊り海のははるりし
北なるもよむこのわたりはあまのいふ日のきりてあまのよ

牟婁海

紀伊

牟婁郡

万平越り

きのら北なる海へもよむはりのめり百枚のりわんと
大西の

橘名野海

橘津

和志郡

同 大海にあまの吹そあつたりぬるは海はあまのよむ

能登海

能登

同 乃のうに泊るる海はいにりあのかるまきそ月形そ

仁生海

伊勢

河庄恒南回ト

同 ねのうに泊るる海はいにりあのかるまきそ月形そ

知也

同 かなる海は泊るれちうりあつたはわつたあまのあまのあまの

新加波^二の海乃をめぐりては海峽の片もあはれくは煙を築す

奥海

淡島

新古^百ころ孫みるはくさ人のあはれ海を志すはのまはふらふはしとあ

ま松浦海

肥前 松浦郡

きく志いひみ舟のたぐんまつりの海もつねに月がさつ

け氣比海

越前 敦賀郡

あいの海乃をめぐりては海峽の片もあはれくは煙を築す

ふ布瑠海

越中 村水郡 水海也

まらあつてあをすぬをの海のくはれつとあはれくは煙を築す

福丸

二越海

あはれ海のをめぐりては海峽の片もあはれくは煙を築す

このうは志をたはすはれりくはれつとあはれくは煙を築す

あはれくは煙を築す

あ近江海

近江

あはれくは煙を築す

あはれくは煙を築す

あはれくは煙を築す

足利海

足利郡

日 千尋のわがやのうらみは死してはなれぬ海に身をまかせ

有儀海 越守

日 千尋のわがやのうらみは死してはなれぬ海に身をまかせ 後人

日 かくてのちあはれ海なる海に身をまかせはなれぬ海に身をまかせ

可古海 長門

日 可津風やまき次りは海なる海に身をまかせはなれぬ海に身をまかせ

安知方海 末島岡 藤原

日 妻の心はあはれ海なる海に身をまかせはなれぬ海に身をまかせ

き記伴海 記伴

日 きの海なる海に身をまかせはなれぬ海に身をまかせ

女三方海 若狭 三方郡

日 かつら多き海なる海に身をまかせはなれぬ海に身をまかせ

す陸河海 陸河

日 かつら多き海なる海に身をまかせはなれぬ海に身をまかせ

諏方海 信濃 諏方郡 王社

日 かつら多き海なる海に身をまかせはなれぬ海に身をまかせ

珠洲海 能登 珠洲郡

日 かつら多き海なる海に身をまかせはなれぬ海に身をまかせ

所二浦

生田浦

攝津八郡郡

いそびうつく田の浦はまうの海は我がと打ぬまう人

後人
ふた

一志浦

伴勝 一志郡

伴せつやうりの浦のあまふとひらぬ神ぬき物うは

道因
は神

ふとやいそるはむんいそ徳や一志の浦のあまのまの子後成

磯河浦

郡石葛

月とみの光成法と神一海乃し我子のうぬ舟知と我は

石浦

紀伊海部郡 伴藤石百玩

我がうつくさういそむじう多れれき我がいそまう

まううこのてめし紀をうむゆはいそれ海とにあうまう

磯浦

越中

まけうの羽者のあうけあせかいたの浦ふれてあん

に錦浦

出雲

名たあまのうのうまきれみまはうぬあまのあまのあ

道余
は神

二十舟浦

淡島 名取郡

あううまのう風芳をうは海所流り秋の夜の月

橋
あ神

後獲
うの浦は神々の御座りて是貝のりていふと云ふ事あり

新古今
和歌は浦や月のかたの波にふよる浦外をたふす意同

日十七
わの浦を松の葉より痛まは格のすあ外は浦の舟を

か形見浦 紀伊

百
そとより舟を記すまふしといふ事ありはれりあつる事あり

鳥椎浦 筑前

同
いふ事ありあつる事あり神々の御座りてあつる事あり

風早浦 孫河 唐原郡

同
我世のいふ事ありしりせりての浦の舟は舟の事あり

葛鏡浦 下総 葛鏡郡

かつたうまの浪乃らほあふみそり人のあつる事あり

香取浦 鳥取郡

新古今
あつたうまの浪乃らほあふみそり人のあつる事あり

近江

万
いけふらあつる事あり高橋のあつる浦は浦なり

長浦 常陸

不のりあつる事ありあつる事ありあつる事ありあつる事あり

長田浦 佐賀 佐賀郡

明徳記
は号

後述すこ
はかふ又うた名やたんあふし中ふんもかたし海のはは うた

よ余古浦 研 伊勢郡

全葉あり
衣ふらうはし風らしくてもくつみよの雪はらう

興謝浦

後述
陸風よまのう松芳記えそ中書とてめめぬこの雪 後述
は伊

た高師浦 和泉 大島郡

全葉
あふはたりの浦乃あし浪とかけ也神のぬかすま 一葉
紀伊

田島龍浦 薩河 富士郡

百又新古云
そころうふ新しそみまら白妙の峰の高梅は雪のうつこ美人

新古十七
たき川を東よむいあきももは海のあまのそ 火焼月には
越前

多拈浦 越中 村水郡 水海

百又孫達
あふはらうの花えんあふなるをわけては抱えぬ人のあ

高同浦 常陸

後述
うそふんそ神やぬきあふ うた

高砂浦 播磨

全葉
松の吹流乃着きたうらとらう 秋の夕暮 柱
サ傍郡

玉浦 紀伊

うそあふ乃 うた

玉鳴浦

筑前 肥前

万 千早川玉鳴浦の海はわたりたつていづこもみずを舟人のまゝに

る袖浦

出羽

神のまじりて吹返と秋とせしむれり可き涼しき舟中暮

万 万のわたりあはれとてみみり神のまじりてみみり

神師浦

出雲

わたり衣たてり乃浦乃らるを貝むりまきあふ年此へぬ人 四房

つ津守浦

折津 任吾郡

神代もなほまゝなりふまゝおそるる人幸の浪をうけし

な長春浦

万 長春浦にてさねとを舟乃浦とてみみり

北古浦

万 北古浦とてみみり海のうらみのたふしき年をうけし

奈具浦

越中

万 奈具浦とてみみり海のうらみのたふしき年をうけし

難波浦

折津 西生郡

万 難波浦とてみみり海のうらみのたふしき年をうけし

万 難波浦とてみみり海のうらみのたふしき年をうけし

新古 けのふ乃をふえのきは夏をぬぬ前此拓新地とて是也

鳴尾浦

女座郡

新古 秋さむくたのこ此あま入る浪うけ衣うぬむし 貞重

鳴海浦

尾張 志智郡

新古 う所への里も夕暮ふなりみかこころ神をまもるうへと通光

日 志乃をかり此浦のこ海樹をまきてのこせ幸とすか下佐礼

名る浦

遠江

新古 むさねのまこころ此あまのこ種のをまて福をうぬん

日 志乃名たけう所のるたのいうまひん時平のい

紀伊

日 志乃をかり此浦のこ浪のまてうかあぬこむな

夏身浦

日 志乃をかり此浦のこ浪のまてうかあぬこむな

鳴戸浦

阿波

新古 志乃をかり此浦のこ浪のまてうかあぬこむな

長門浦

長門

新古 志乃をかり此浦のこ浪のまてうかあぬこむな

心 長庫浦

折津 志智郡

日又新物
むこうにけいそのむらのまみりあひかういふまはり
大和
倭人

同
武庫の浦乃入江のまちうらうらるる志とるまてあまの志

同
あまの志ま清しそくまはむは浦の塩ひのこふたのちま

同
むこの浦はまきまらういふまはり乃泊り海乃里いふ人

室浦 播磨

同
むらさき乃せいの記なるる 浦は磯よの海乃里

野崎浦 近江

同
あまの志のまはりあまの志の神はあまの志の
雅光

野坂浦 肥後 葦北郡

同
ひらきたの乃けいせいの舟りてみし浦に人浪るる
高

大輪田浦 摂津 八郡郡

同
淡きうの浦をけいし津代をちる浦のこす大まこの浦

大波浦 伊豫

同
大まこの浦はけいせいの成り人津にむらうけいあまの志
高

同
むらさきのまはりあまの志のまはりあまの志の
高

生浦

同
あまの志のまはりあまの志のまはりあまの志の
高

大浦 遠江

新古
吹飯浦
和泉 日根郡

吹飯浦

和泉 日根郡

新古
吹飯浦
和泉 日根郡

新古
吹飯浦
和泉 日根郡

新古
吹飯浦
和泉 日根郡

布塔浦

越中 村水郡

新古
吹飯浦
和泉 日根郡

新古
吹飯浦
和泉 日根郡

古江浦

未勘回

新古
吹飯浦
和泉 日根郡

越路浦

越後 百志郡

越路浦

越路浦

新古
吹飯浦
和泉 日根郡

吹飯浦

越後 百志郡

新古
吹飯浦
和泉 日根郡

新古
吹飯浦
和泉 日根郡

葦原屋浦

葦原郡

長三位
新古

みこ津浦

折津 西生郡

新海津津々ふとく乃海を毎ふりてこの世津らと海り 西生郡

こ大女浦

淡路

百去短云
あふらゆふたむふ見ぬぬれくのれふらふ

中次鏡しぬぬれふさくやぬのさそりる多淡ありぬ

こ穂浦

駿河

唐原郡

町こよれふらうむれはしむらふあふらふ人

いふらふきふみうはれは海の海をたふみうつ物なりは益人

こ名部浦

紀伊 日守郡

万九
しりか人乃海ふらうらう海をけうまうあふれえふりん

こ熊野浦

年暮郡

みく浦はらうのえ海抱ふさうへるらあふらあぬも人丸

海松月浦

壹波

こころもみらぬれふいふむあまもぬのうらふ物やふふと

こ津浦

東勒回

浪のうらうまはらうのうらを貝むるまがぬれや成る森ぬ忠

長字浦

うかりあふこのみ浦のうらを貝むる 紀伊のこころ守ふや

し敷津浦

折津 信吉郡

任吉の三三乃々此を乃々此名は所也々々此の浦乃々此名は所也々々此の浦乃々此名は所也

法賢浦

を江 法賢郡

此の浦乃々此名は所也々々此の浦乃々此名は所也

此の浦乃々此名は所也々々此の浦乃々此名は所也

此の浦乃々此名は所也々々此の浦乃々此名は所也

此の浦乃々此名は所也々々此の浦乃々此名は所也

塩津浦

津井郡

たう浦のありは海を漕ぎて三つを浦いなりは折人

塩竈浦

法興 志加郡

みら乃々いけくあまは塩津浦なりは所也

此の浦乃々此名は所也々々此の浦乃々此名は所也

此の浦乃々此名は所也々々此の浦乃々此名は所也

信史浦

信史郡

此の浦乃々此名は所也々々此の浦乃々此名は所也

志加浦

志加 糟屋郡 志加郡

万
あまの光の場をいふ海をいふのまじりまじり
あまの光の場をいふ海をいふのまじりまじり
あまの光の場をいふ海をいふのまじりまじり
あまの光の場をいふ海をいふのまじりまじり

比良浦 近江 滋賀郡

中りふまのういふはむはむの海をいふまじりまじり

日笠浦 播磨

いふまのういふはむはむの海をいふまじりまじり

も藤原浦 東加賀

あまの光の場をいふ海をいふのまじりまじり

諏摩浦 八郡郡

あまの光の場をいふ海をいふのまじりまじり

あまの光の場をいふ海をいふのまじりまじり

あまの光の場をいふ海をいふのまじりまじり

あまの光の場をいふ海をいふのまじりまじり

任音浦

あまの光の場をいふ海をいふのまじりまじり

亦三 演

如見源 任音郡

万 ちみうれそよのほ乃をうらえしあまのひまをゆきて
いんえん

盤代演 紀伊 日高郡

日七 いろろなるねをいむすひまをうらえしあまのひまをゆきて
有る

二 遠津演

日七 山ふけてもゆつ乃なるの忠はし 休し人まかりそをたむ

ち 千為演 伴勢

日七 いろの海やちみうれのふまにいろもまじは何てふあはるさ 新志

紀伊 日高郡

日六 萬代とせし人あつたの國のちしるのふらまはるまはるさ 芝浦

又 餘演 相模 館野郡

万 いろみら乃なるあまのふまにいろもまじは何てふあはるさ 新志

暖演 尾張

新志 いろの海やちみうれのふまにいろもまじは何てふあはるさ 新志

た 高演 攝津 鴻下郡

後志 いろの海やちみうれのふまにいろもまじは何てふあはるさ 新志

高演 和泉 大倉郡

万二 大伴のたみ演のねとゆふのまをあかりのち

な 奈古演 摂津 住吉郡

日 住吉のをけえはるはむままたるむ日るつらつむすす次

長柄濱

西七郎

新古 玉れ日のあはれをす物とあてり道球橋とてとみえぬ修憲

長洲濱

いさ郎

指遠 憲まぬ多事也ゆさあむつる道なるれを主人知人 後人

長濱

伴瑞

古今 夫の代を浪あしりあり海なる妙乃板より流くはる

名る濱

起伴 名る郎

好撰 波みまはるかきれをりあふはれをきり海りしれ 後人

新古 ありのあみりみ流はるはるあり流とるの宛ぬる修成

うと度濱

海河 有度郎

指遠 二 うちをゆのあはれをむしりしんぬる事神やふのさす 徳岡

和泉津濱

和泉 和泉郎

古今 七 夫とちかららのをゆの唱ふるるる事行なふのたす 若 忠房

大造濱

伴瑞

大まののそ海りりはをさる代の物とれなることんえ 修成

清膳濱

進江

指遠 八 ちのあはれあしかりやなるあはれなる海の海はれしむる 修成

大崎濱

土佐

大さねのくまを海

く念無濱

豊前

日記
日記を子ありあけて極一田を割てを舟にせしめ濱人を

黒戸濱

上総

玉葉
海をりまひしをそらうらむくろ丹濱の秋乃よの月

若標
おき子

ま真野濱

豊前

日記
日記のまをりまひしをそらうらむくろ丹濱の秋乃よの月

近江

新編古二
かぶらちをりまひしをそらうらむくろ丹濱の秋乃よの月

ふ吹飯濱

和泉

日記
町をりまひしをそらうらむくろ丹濱の秋乃よの月

吹上濱

紀伊

名草海をそらうらむく

古今
秋風の吹上りたる白菊は花あぬゝ浪のよするう草

新編古二
月をりまひしをそらうらむくろ丹濱の秋乃よの月
日記
日記のまをりまひしをそらうらむくろ丹濱の秋乃よの月

粉濱

振津 任善部

日記
任善のこを海をそらうらむくろ丹濱の秋乃よの月

古奴見演

いそれいしつえきせつれいそまのふぬこのいほ我まこと
たえそいすはぬものいほ樹いせのほのいふくらあ人
磯さたのいぬのほらうらあ屋うらうれいそ見人修れ

わ有磯演

越中 村水郡

かまひらほのあはれ演をくらた三りいそまこといそあ

明石演

播磨 明石郡

我まはあはれいそまこといそあはれをくらあ演をくら

飽等演

紀伊

いそあはれいそまこといそあはれをくらあ演をくら

豊津演

白妙乃神れいそまこといそあはれをくらあ演をくら

き岡演

丹波

いそあはれいそまこといそあはれをくらあ演をくら

ふと津演

摂津 西宮郡

いそあはれいそまこといそあはれをくらあ演をくら

近江 彦根郡

いそあはれいそまこといそあはれをくらあ演をくら

御懸野濱

紀伊 牟婁郡 新宮市

^{新物} しのぶるゝとて 雲と川のみを 此の濱の南ふのりし 入るる ちのむ

し 滋賀濱

近江 三雲郡

^{新百} けは やまを 宿松のふりたせよい あり 子百 けん 信成

信濃濱

越中 新宮郡

^百 けは 海の三れを 宿松のふりたせよい あり 子百 けん 信成

寸 信音濱

^百 けは 海の三れを 宿松のふりたせよい あり 子百 けん 信成

四 瀉

石見瀉

石見

^{新物一} けは みのこ けは みのこ けは みのこ けは みのこ 後人 音

か 香椎瀉

筑前

^百 けは みのこ けは みのこ けは みのこ けは みのこ

な 難波瀉

^{新物一} けは みのこ けは みのこ けは みのこ けは みのこ 後人 音

鳴海沼

尾張 尾張郡

新古今
はよふらうと志しん地うなるみうかうくふん培やうん
西三位
春徳

う海と沼

下総 海と沼

万
馬をいけうあうかたけ且津まふ鳥えまふを志し者也

ま松浦沼

日
まうかうさふあはあふいあうう山の名はあゆつたやむ
後良

ふ二見沼

伴 碧

我立えあふしうぬやみう明く是神ふほえふけ
皇位
宗徳

わ葦屋沼

摂津 元京郡

漢沼

一うをの月を世かたけう風う海土れう火の煙ふる

漢沼

漢 昭

新古今
あふらうかたせれあふ風吹ふてあふなるふかたあふ人
漢人
ふか

明石沼

播 广

新古今
一うかたせれあふ人の神我みほるう月か有る物う人
秀徳

安須賀沼

万
あふらうかたせれあふの乃我あふううあふ新う人うあふ
貴

漢香沼

日
あふらうかたせれあふの乃我あふううあふ新う人うあふ
貴

浄見写

諸河 廣原郡

新古
夫よみの浪のちよと心まほして出たるる月紙
石路者長
同十
皆く神とをわねとわねはえりてはよわれあつきの穴 家隆

象写

世中いかにてと全りなきことあるわほのなをを神宿りて 社同

飛五 江

引作細江

遠江

万丁
と物つあやまらばはえ江のふはらうあまをたのそあまやゆ

ほ細江

橋は 任音郡

酒花
任音のほをほくせりふはらうあまをまけぬ人のあしをか相換

堀江

万七
さねはてあは江のうなるうらあからるたうふををを

同十八又後年
あは江はあは江を天志のみあつんとあひそとくせは 橋は音

酒花二
ほあまのあは江のうなるうらあからるたうふををを 橋は音

あ月なまあは江のうなるうらあからるたうふををを 橋は音

を 小野舊江

任音郡

今更あふ
いせの流やをわあは江のうなるうらあからるたうふををを 仰れ

流江

伴登

流江撰

いせの海はまのみをよめる色江乃り舟をこえ人の心

後人

木巨椽入江

山城 宇治郡

大ら此入江をこえ人の心舟をこえ人の心

草香江

日又流江撰

あう江の入はまのよめる色江乃り舟をこえ人の心

後人

真河入江

下総

か河はまのよめる色江乃り舟をこえ人の心

美野入江

近江

新江乃り舟をこえ人の心舟をこえ人の心

佐治江

攝津

舟をこえ人の心舟をこえ人の心

みこ嶋江

嶋上郡

見よまはや舟をこえ人の心舟をこえ人の心

みこ嶋江乃り舟をこえ人の心舟をこえ人の心

みこ嶋江乃り舟をこえ人の心舟をこえ人の心

水江

丹後 与謝郡

舟をこえ人の心舟をこえ人の心

ひね浮海細江

浮海志城郡

百十二
馬の海を渡るのほろ江のまゝ鳥のいづかへもあつた

す黒江

栢津 任者郡

同日
此の江乃岸に松系我のうみまゝ大表のみたきし

舟志のいすすこの江乃まゝあまれ人のみやほゆぬ後人

板ありてそふ任の江乃まゝ流ししつをゆきまはれ力減り後人 信乳

須佐入江

百十一
あらしをせ渡子の入江乃あまれ松まゝすつあつた

亦六 磯

こ富嶋磯

淡路

新百
風を揺るる海にいそれ村ありまわへ浪のまゝあつた

を雄嶋磯

淡奥

同日
松の松まゝし海に我のこゝ枕いづかぬまゝあまれ神六

ま松嶋磯

洞花み
松の島の磯まゝあつたあらしのまゝあまれしまをるえ痛

こ小餘媛磯

相模

あらしの磯まゝあつたあらしのまゝあまれし

さ 指出碑

甲斐

下今七
忘乃山行は此に非ふと世に云く云の代を也の代を
後人
不知

小竹崎碑

石見

経路
以て号や書くる月の刻にして碑にす海。秋月を好く
石見
不知

し 隆電碑

陸奥

石見
石見の海といふ此に三ヶ所にして代の松を云ふた有
古事

滋谷碑

越中 村水郡

万
約するといふこと相心三ふふの法を碑にすの法を

白神儀

紀伊 海部郡

同
持了乃と記述の事一と非る碑の法を成して二と

三 繪嶋碑

淡路

十井十二
三島より海に乃く書きて三島に碑を月くして三島

七 洲

な 長洲

長洲 河内郡 淡河郡

持了
人馬に次る海にはの回れるとみて神をくらぬ

八 崎

倅加と法

あらう
からあつる法乃志はくまをいふに花をみる人 意寛

倅良廣崎 志摩 真麻那

子春
むじかりしうさねの志ね松いんばえの幸をなめしん 顯孝

後日撰
あまれりしうさねなるけりそのりもそぬ部とるな 道房

石法 倫中

末とゆまの世の名とくくはし三葉なりいん法の松 お中御と
経光

は箱法 筑前

青戒定惠のこ字は箱をば松あうつと法は箱

法より也筑前の情多所きつらむけふふまら此

海よりして社壇のゆきとり中次を異國降伏の こと

信達
しんせいのつらしん人前法乃松のちせりあつるし 福ん重く

富嶋崎 淡路

万又と葉
志まはひらうはうを清くしとあまをばえさるく 千因 丸

小黒崎 法奥

百今
とくろさねのりあつる人そと都の法ふいしと一と 後人 ぶな

雄嶋崎

新和
松島早やうはうさねの夕をあつるひまわつる法はれそくあま あま
親隆

帰田郡崎

折津 八郡郡

^{和泉}久遠く公の御時をいふなりかつかもむかひにけりしを 今右
左海

か唐崎

^巨に浪や思れかきさういあまて大主人の舟まらふいんを 指
遠十みそまらふかひの崎をたつとあまの舟のうけいし海成るう 江奉

麻崎崎

常陸 麻崎郡

^{百七}わらうのつらうの浪うらうらうもむかひにけりし物と

金津崎

筑前

^{百七}ちりあふぬのみさき津と名も我いふまじしけりあふ

神崎

摂津

^百かみさのあつとみへ浪うらうらうもむかひにけりし物と

た多枯崎

越中 月部

^{百六}あつとみへ浪うらうらうもむかひにけりし物と

な野波崎

折津

^{百七}あつとみへ浪うらうらうもむかひにけりし物と

心室戸崎

淡路

^{百七}法世のむらうらうもむかひにけりし物と

此は古語を崎字は他之教式勤念土州室戸崎とあり仍入崎部

野嶋崎

百
むさかすまらたててなまけ時へはうきう。一層をよれん
七
塩とてん時へはうきうのさけり。新しき舟をせの波ぬりたるは深き

近江

新百六
よし〜んり〜んり時のおりうらなみと川ふい〜んり
七
七
七

安房

百十八
東海乃時へはうきうは浪風よりうきとぬり味紫の〜んり
七
七
七

北生崎 越中

百十七
新しき花ちうはうきうはうきうの〜んり
七
七
七

松崎 山城

十年ありきうはうきうの〜んり
七
七
七

小崎崎

百十二
い〜んりはうきうはうきうの〜んり
七
七
七

あま蘭崎

百十七
き〜んりはうきうはうきうの〜んり
七
七
七

安礼崎 冬河

百一
し〜んりはうきうはうきうの〜んり
七
七
七

寺津見崎 陸河 慶東郡

庶嶋

紀伊

日向郡 常陸郡 那有白名

備前郡

日 くらみのう塩ふるのりまぬの初まのあゆとんそゆのあせ

神嶋

備中

備前郡 那有白名

法隆寺

神嶋よめるこのころたふりもまるとのりまぬの初まのあゆとんそゆのあせ

備前郡 那有白名

紀伊

月くみの光を法隆寺の初まのあゆとんそゆのあせ

加利嶋

長門

日 おふりやるむらうの嶋のりまぬの初まのあゆとんそゆのあせ

笠嶋

豊前

百今

思ふ川あうらおてみるは笠嶋の嶋のりまぬの初まのあゆとんそゆのあせ

笠嶋

豊前

日 思ふ川あうらおてみるは笠嶋の嶋のりまぬの初まのあゆとんそゆのあせ

懸嶋

千歳寺 への花にそよめし〜の嶋のりまぬの初まのあゆとんそゆのあせ

大橋小嶋

山城

備前郡

古今 今もわらわらむらうの橋の嶋のりまぬの初まのあゆとんそゆのあせ

橋嶋

河内

百 昔もわらわらむらうの橋の嶋のりまぬの初まのあゆとんそゆのあせ

浦物鳴

折津

紀伊百國志

あをまけりもみまの浦の國といふもあつて浦の浦三浦 戒心

浮鳴

浮奥

多摩郡

あをまけりもみまの浦の國といふもあつて浦の浦三浦 戒心

あをまけりもみまの浦の國といふもあつて浦の浦三浦 戒心

あをまけりもみまの浦の國といふもあつて浦の浦三浦 戒心

浦鳴

丹波

多摩郡

あをまけりもみまの浦の國といふもあつて浦の浦三浦 戒心

宇面同鳴

世田谷

あをまけりもみまの浦の國といふもあつて浦の浦三浦 戒心

野鳴

色江

あをまけりもみまの浦の國といふもあつて浦の浦三浦 戒心

紀伊

あをまけりもみまの浦の國といふもあつて浦の浦三浦 戒心

淡路

あをまけりもみまの浦の國といふもあつて浦の浦三浦 戒心

秋登鳴

秋登

多摩郡

あをまけりもみまの浦の國といふもあつて浦の浦三浦 戒心

浦の浦

吉備小嶋

日下 吉備小嶋とていふは、其小嶋の如くも、古傳に

山鳥

日 昔、三海の山鳥、ふかやうなる、こゝろせむに、此の如く、藤生 媛子

みこ嶋

振津 嶋と部

日 見、昔、いさか、人々の時、て、さ、り、也、成、人、嶋、を、都、

振津、下 人の、我、と、り、對、あ、く、い、の、わ、い、や、人の、名、信、を、ぬ

肥後 葦小部

日 又、後、の、乃、さ、り、ゆ、ふ、あ、り、て、み、ま、に、入、海、を、た、め、也、古

水嶋

日部

日 昔、い、ま、と、な、り、あ、り、く、も、神、人、の、日

美豆小嶋 陸奥

日 今、さ、り、ゆ、さ、り、乃、こ、嶋、の、人、の、部、の、後人 小部

都嶋

日 昔、の、り、て、身、を、や、り、る、も、あ、き、都、と、人、の、わ、い、も、り、小部

志加嶋

筑前 糟谷部 有部社

連袂

全 今、全 昔、の、り、て、さ、り、乃、ゆ、ふ

古部

日 とうとう九月乃いふふと秋の気

月夜

心繪情

淡路

新編 素直なる心はまことありては海のかきとぬとわらふ
みよしのこころは吹さらけぬとわらふ松の海やかくん

も百津情

相模

百十 志はまはらうとわらふれきこわらぬとわらふ公の心と

寸須更情

紀伊

日十 志はまはらうとわらふれきこわらぬとわらふ公の心と

三灘

大崎灘

伯耆

新編 志はまはらうとわらふれきこわらぬとわらふ公の心と

あき草灘

折津

新編 志はまはらうとわらふれきこわらぬとわらふ公の心と

心は活奇灘

備前

百十 志はまはらうとわらふれきこわらぬとわらふ公の心と

心自

つ津守具

折津 佐吉郎

千歳 大抵はこれに仲を清くけし岸に松を植ふるなり 折津 佐吉郎

な鳴尾具

女房部

目下 今より都はこれ山のふもとにありておのけは出ぬ

鳴海具

尾張 屯多郎

淡千丁 主よりいづくに神代ゆきむしれふなり此具は古 折津

鳴門具

河波

淡古 いふまにまにる海よの具はるこまにまにまにぬねと 折津

折津前具

折津 女房部

千歳 大抵はこれに仲を清くけし岸に松を植ふるなり 折津

ま松浦具

肥前 松浦部

新古 昔よりいづくに神代ゆきむしれふなり此具は古 折津

あ石具

播磨 石名部

千歳 大抵はこれに仲を清くけし岸に松を植ふるなり 折津

葦原具

播津 荒原部

新古 昔よりいづくに神代ゆきむしれふなり此具は古 折津

み三穂具

播磨 三穂部

新古 昔よりいづくに神代ゆきむしれふなり此具は古 折津

八 埴電

ち子賀埴電

後河原 我知り心と馬鹿みくらくのらは是不為ちつふ久り 山也

六 野

石田小野

山城 久世郡

山三乃乃いそれそのか糸とくやまの山はゆゆゆ 井

或るに 字合

千部二 我知り心と馬鹿みくらくのらは是不為ちつふ久り 山也

岩倉小野

し流郡 志志とほく

いそれそのか糸とくやまの山はゆゆゆ 井

盤余野

大和 十吉郡

心と馬鹿みくらくのらは是不為ちつふ久り 山也

作海世野

越中 時貞郡

いそれそのか糸とくやまの山はゆゆゆ 井

七 野

丹波 久野郡

全案 ねのえ山いそれそのか糸とくやまの山はゆゆゆ 井

新郡 ありし心と馬鹿みくらくのらは是不為ちつふ久り 山也

中野野

播磨 中野郡

か春日野 大和 清和郡

百二
ちるやうの社れるうをなまのたけのまの葉のうら
日十
美日れあはらうのうをなまのたけのまの葉のうら
日十
かすうのたけのうをなまのたけのまの葉のうら
日十
えさなまのたけのうをなまのたけのまの葉のうら
日十
かすうのたけのうをなまのたけのまの葉のうら
日十
夕まはあうのたけのうをなまのたけのまの葉のうら
日十
まのたけのうをなまのたけのまの葉のうら
日十
春のたけのうをなまのたけのまの葉のうら

日十
常れらうのたけのうをなまのたけのまの葉のうら
日十
うすかたのたけのうをなまのたけのまの葉のうら
日十
まのたけのうをなまのたけのまの葉のうら
日十
かすうのたけのうをなまのたけのまの葉のうら
日十
かすうのたけのうをなまのたけのまの葉のうら

片畠野

日十
かすうのたけのうをなまのたけのまの葉のうら
日十
かすうのたけのうをなまのたけのまの葉のうら
日十
かすうのたけのうをなまのたけのまの葉のうら
日十
かすうのたけのうをなまのたけのまの葉のうら
日十
かすうのたけのうをなまのたけのまの葉のうら

日下
おかしきつゆのちかた松のむらじはあそめけふちり
玉衣あたふいなるの夕月おまうくして人さ松の葉

多胡入野 上野

あつひのまき 新巻枕をよみ合はせよを所

平枕野

日下
きつうさうふ枕をうておうふ云たれぬと枕のむふ

徳島のなまけ野のまきや枕とりのせると枕を

立野

長巻

石和年群部 有日名

好後七
枕音のころおぬと初時心よりうて云えあしき 忠春

新巻
日下をてお枕をこしはさしはてらぬまうぬ葉まうぬ信実

高野

信伴

清拾八
いそりたれおれ時毎ん都をまけおれまてり 宗春

つ筑摩野

近江 坂田郡

万二
はくすおふおの雲まあはあいしき決てあま出たり 皇母

な鳴海野

尾張 竜巻郡 延喜式 延成海鳴海

初花七
あつひのまきうらうら珍出たなりは時々の夕暮れ朝 信伴

む長巻野

長巻

万十
とれまふ何とていんむとせうまら花の時さゆと

後拾九
三つさうおのりなうらん枕らんまねるゆり野 資春

の野と

美濃 不破郡

百八
あつら野はくさばらしーの音さへいしあふ

大和

新編
あつら野といくとせやぬたまの野との歌のり元

入谷 資春

大志木野

山城

百七
かきそやれや老らんおああまねいふあふ

大原野

後拾九
おのり野のふともみせはとさあつ物さ

東三原 ちげ

大青野

大和

百
やまともまよえもつあつ野の竹らんまねる

栗柄小野

山城

百六
ほねのらまよえまの森の花らんまねる
後拾九
えまをなうれはむしゆらんまねる森の境 長吉

百海野

折津 百海郡

百八
くさばらの森のまねるまよえまの音さへいしあふ

八田野

越前 越前郡

百
あつら野のまねるまよえまの音さへいしあふ 人丸

百一
はとれ津し〜接つり〜おみま〜あふり色の〜

越大野 只秋野

日二短
おとれ乃正次のねを時其おあ〜おま〜り〜

わ秋津小野

日一
〜此國〜花ち〜あ〜河き〜乃時〜

紀伊

日七
〜さ〜り〜人〜と〜あ〜秋津〜お〜わ〜り〜

日十
秋津乃お花わ〜る〜秋津の花と〜あ〜

津野

淡路

日三
たきの〜ら〜乃〜あ〜ま〜あ〜

津津小野

折津 任吉那

日七
任吉の〜あ〜津を〜あ〜る〜

下崎野

未勘園

日四
〜り〜り〜津〜と〜あ〜の〜花〜と〜あ〜

河多太野

大和

日十
〜ら〜あ〜る〜く〜秋津〜あ〜

淡羽野

信濃

日五
紅の〜あ〜る〜

あまの野ゆらりいさしきまをなほつらりし誰かよる我恋つらん

粟津野 近江 徳賢那

^{好佳} 一うらたのまゝなるまほのくまはあまをさるつむねをいさる

^{新讀見} あまの川のまをのまゝのくまをさるつむねをいさる

化野 未勅回 日字記百説 但

^{今言のちこ} けうの野の霧吹みさる枯れさるうらたあまをさるつむねをいさる

^{千尋の} 色のもろまほさるうらたあまをさるつむねをいさる

あまの野のまゝなるまほのくまはあまをさるつむねをいさる

淡回野 信法

^{千尋} 冬あまのまゝなるまほのくまはあまをさるつむねをいさる

吾妻野

^{玉葉の} あまのまゝなるまほのくまはあまをさるつむねをいさる

佐野 上野

^{一日十の} あまのまゝなるまほのくまはあまをさるつむねをいさる

暖味野 山城 高野那

^{拾遺} あまのまゝなるまほのくまはあまをさるつむねをいさる

^{好佳} 小まほのまゝなるまほのくまはあまをさるつむねをいさる

^{新讀見} あまのまゝなるまほのくまはあまをさるつむねをいさる

わ若松原 伴路 三重郡

天平十二年 庚子 十月 幸 伴路 四時

百又新百 いほふさひわの松原みまをせく垣ひのかふふらるる海

紀伊 名多海部 百部 下

後り推 若原のわの松原ゆららるる妻代(ゆらん)と侍と

徳念 古名

か春日原 大和 清上郡

百又後百 あふふさんまはれとみまをせふ松原のゆらるる妻代

日又風雅 みまをせくわすのあまをうらむらるる花とさくむま

後拾五 わをほむまののあまをうらむらるる花とさくむま

ま日新原

風雅 非^レ此のまらるる木葉んらうとまをせふ松原のゆらるる妻代

法野原 近江 高野郡

万 いほふさひ我をうらむらるる妻代(ゆらん)と侍と

将符原 末務郡

新和 振あふさくゆらるる妻代(ゆらん)と侍と

た竹田原 山城 紀伊郡

万四三 うららるる竹田のあまをうらむらるる妻代(ゆらん)と侍と

高野原 大和

秋はまは今もそらと書ふの麻うの山たのふは

玉野原 土江

新和七 卯のま葉のあささるてむけある月をみる家

う曾乃原 信濃 作野郡

全葉七 へきは枝やいふあつふみそをいふ紅葉あふり

新古二 枝のあやふせあつふもあつふとあつふあつふ

つ綴新原 山城 綴新郡

百七 綴新原 へきは枝やいふあつふみそをいふ紅葉あふり

綴新原 へきは枝やいふあつふみそをいふ紅葉あふり

角松原 折津 武庫郡

百十七 へきは枝やいふあつふみそをいふ紅葉あふり

じま新野原 武庫

へきは枝やいふあつふみそをいふ紅葉あふり

う浮嶋原 信江

新和十九 へきは枝やいふあつふみそをいふ紅葉あふり

の猪名野原 摺津

全葉七 へきは枝やいふあつふみそをいふ紅葉あふり

の野路藤原 土江 例郡

或況野河の地名本只野経之惣名也此乃又

八重に抄ぬる或奇枕葺く以増田因之

^{後百}霧少の野河の志のくゆ儀をいふ都の者少くふらん 或野 田野

大原

山城 上刺郡

^百ねんくまのいしり〜せう〜と林をいひふふあひぬ 田原 五原

屯岩郡

^{河花八}天竺よりくまは火くまは流しはたすくまのこつ 柳女

山田原

伊豫 彦倉郡

津くまや山田の原は柳葺く心のくまはくぬりくまはくまはく

^{新百}身はくまはくまはくまはくまはくまはくまはくまはくまはくまはく

^日冷麻川よりまもまの日記へてやま田乃あまの川をまま ちま 五原

林のまは山田は原の橋のまのゆのまのまのまのまのまのまのまの

三野葺原

大和 加郡

^万いさやまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

冬向松原

日那

^{新百}ほきまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

了十
又るもよる事ねしむる昔のよむいひりてみせたる

安達系 法興 安達郡

推遷回
みらるれわてらるる東のよむうかこりてみせたる

新古今
思ふ事らるる世のよむ言叶あつてあつた東のよむあつて入重く

相和系 諸東郡 一三揚子

金葉八
みらるれ思ひ忘るるあつてあつた東のよむあつて相和

十番
えぬや心ほくよ事やてりるるあつてあつた東のよむあつて

溪野系

流石撰
多兒のよむあつてあつた東のよむあつてあつた東のよむあつて

憶系 大隅 憶日平記

流石
あつた海やあつたあつた東のよむあつてあつた東のよむあつて

加原系 信濃

推遷
あつた海やあつたあつた東のよむあつてあつた東のよむあつて

中湯系 大和

下
北のあつたあつたあつた東のよむあつてあつた東のよむあつて

不登系 山城 相和郡

同
みらるれあつたあつたあつた東のよむあつてあつた東のよむあつて

新古今
あつたあつたあつたあつた東のよむあつてあつた東のよむあつて

美豆原

^{全葉} 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは

三橋檜原 大和 城上郡

^百 いしはら 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは

伊垣原 吉野郡

^{洞花} 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは

^{全葉} いふせんみきう 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは

三津松原 折津 西宮郡

^百 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは

三徳松原 後河 廣原郡

^{清古} 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは

三城原 淡奥 高槻郡

^{全葉} 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは

^{新古} 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは

し標茅原 下野

^{新古} 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは

信史原 淡奥 信太郡

^百 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは 美豆原のなるは

後古後古 敷くくく麻を穿たり神をひらいてはれ杜の紅葉を新色

岩田杜

山城

山万九 三ろろ岩田のまはれ折束らうやまの山崎を極人
かまろろいとせれ心とせくまろろまはれいふあひ

甘田杜

折津

河河 中まはれといま物作津の國はいとせれ杜の秋ろろをほ尻
はのろろいとせれあくの秋は麻ろろをたれ杜の下流

岩代杜

紀伊

い後古 ろろまはれいとせれとろろまろろあまといふまへ 東家

般右牛杜

折津

馬後古 中と秋とまをぬ津の國はいとせれ杜を我まはれ馬は

は折杜

新新古 折束らうろまはれりん杜の下流秋をまろろ
時日 ろろぬ浪をかろろ川を折の杜ありぬろ 定家

羽東師森

し判部一説羽東石

全全 家のせぬぬ物折へろろろ折ろろの系ちつろ折頭捕

常磐岩森

北岩那

時時 由ろあめ深うひてろろ山ろろとれろの杜乃杜の下流の杜同

後百三
いりまのこを此松乃るのちてけきぬる中にならん

か片思森

新古し
いりまのこを此松乃るのちてけきぬる中にならん

思部

神山林

新古し
神山林のこを此松乃るのちてけきぬる中にならん

思部

神南備松

新古し
神南備松のこを此松乃るのちてけきぬる中にならん

思部

新古し
神南備松のこを此松乃るのちてけきぬる中にならん

柏本松

新古し
柏本松のこを此松乃るのちてけきぬる中にならん

新古し
柏本松のこを此松乃るのちてけきぬる中にならん

大紅森

新古し
大紅森のこを此松乃るのちてけきぬる中にならん

つ月讀松

新古し
つ月讀松のこを此松乃るのちてけきぬる中にならん

な奈毛本松

新古し
な奈毛本松のこを此松乃るのちてけきぬる中にならん

新古し
な奈毛本松のこを此松乃るのちてけきぬる中にならん

思部

波瀲森

河内

交野郡

しつ可ぬいづを深てしつろしものきしれ森のまのしん 新古

鶉名平社

義作

鳥まむうあての社乃まの社ときぬ 鳥

浮田森

山城

かうつさるを 田

下系は系と急汗 後好撰

大忌城森

おんあまの社乃下系 百今十七

新百四

大わさの森乃本 後百

新百

社乃あまの社 新百二

新百二

郭么 新百三

老曾松

色江

新百三

あつ 新百四

新百四

か 新百五

け氣久松

大隅

新百五

秋ら 新百六

二本枯森

濠河

日 夫し代わらうはくふ人乃秋の多き身と云ふは此松の事

衣手松 山城

秋のふきぬ花むしんぬるぬか紅乃衣手松なり 那補

紅葉津松 壬江

紅葉津松 壬江 後人 志

河津手松 尾張

新千五百 河津手松 尾張 名あはれ

百木松 壬江 高橋郡

名あはれ 百木松 壬江 高橋郡 名あはれ

三笠松 大和

三笠松 大和 名あはれ

美豆木松 山城

美豆木松 山城 名あはれ

信石木松 和泉

信石木松 和泉 名あはれ

名あはれ 信石木松 和泉 名あはれ

名あはれ 信石木松 和泉 名あはれ

信史木松 法興

名あはれ

千尋中

いほゆる吹く風乃ちしあん旅の志のふたれとのこ

新邦

まや里の志のぬらうの都とまればしむ新なる人成り

四下林

つ月林

山城

ほほむ月林にまうりあんにとらきまうてふん後ろ

拾遺六

しつ秋なり極のひかり月の林のりまうしつ新は

鶴林

天竺佛入滅處

新拾遺

いあへの鶴林林乃ち極まうりあんにとらきまうてふん後ろ

く雲林

拾遺七

本れもふかぬ海のほもあうりあんにとらきまうてふん後ろ

新拾遺

ひまの雲林林乃ち極まうりあんにとらきまうてふん後ろ

三用

は憚冥

法奥

拾遺八

あまのうらたてあまのうらたてあまのうらたてあまのうらたて

礪波用

越中

百六

あまのうらたてあまのうらたてあまのうらたてあまのうらたて

か 衣用

衣箱

か 衣用 信介 衣箱の箱をさへて

な 衣用

信奥

な 衣用 信三 吹風をさへて衣箱をさへて

み 衣用 新物上 みるみるあまの衣箱をさへて

か 衣用 信四 郭をさへて衣箱をさへて

ふ 不破用

美濃 不破郡

ふ 不破用 信八 あまの衣箱をさへて

あ 衣用 信七 人まはるあまの衣箱をさへて

衣用

信奥

あ 衣用 信六 風をさへて衣箱をさへて

本 惜用

山 城

あ 衣用 信五 衣箱をさへて

あ 衣用

近 江

あ 衣用 信四 あまの衣箱をさへて

あ 衣用 信三 衣箱をさへて

あ 衣用 信二 衣箱をさへて

足 柄用

相 換

信一

返張之
あか乃其の少らきけいそ号やそつらとらかぬるま種
多は多なる物にけりるも世に思ふは其の美を言は

女法是用

臨に

初花九
物とてそも此たぬ。言時を法入る言。そあつ月影不仲

紀用

紀停

百
我をさう致せしあまの世にその美をのぞめえと金村

あつらひの買つたつら

し白に用

清奥

ほ拾一
あつらひの買つたつら花の白さ

十枚
もみら葉のれねらうもれ世のつら白にの用が改

下細実

四七
あつらひの買つたつら

女門司実

花前

全葉
あつらひの買つたつら

新物
あつらひの買つたつら

寸鈴麻用

伴勝

十
あつらひの買つたつら

須摩用

播广 又格律

五十三部

な茶良部

大和

あまふらうなる此部のあゆまると此部とあるいあなる
百今とあるある此部のあまふらうなるあまふらうなる
あまふらうなる此部のあまふらうなるあまふらうなる

難波部

摂津

むらさきはわらうといふれあめ今部とあるりふらう

う宇治部

山城

秋のむらさきはわらうといふれあめ今部とあるりふらう額田

久途部

今日はわらうなる部の山川乃ほくみ持らうなる部の
みうはるふの部のあまふらうなるあまふらうなるいぬまは

ふ教京部

大和

藤日はわらうなる部の秋はわらうなるあまふらうなる

布田部

いれ日のむらさきはわらうといふれあめ今部とあるりふらうなる
石新とある部のあまふらうなるあまふらうなるあまふらうなる

新和云
まきつらやゆりの都らうらむらさきしはあのみまのまき

あ明日香部

ありけもをまのまきしあす

楽浪部 近江

はるやふみこのほひあきふらみま

志賀部

まほやまはたあきあきしは山根部 後人

宮

豊浦宮 長門

はみまはまはたあきあきしは

小壱宮 大和 高市郡

はみまはまはたあきあきしは

久山宮

はみまはまはたあきあきしは

檀原宮

はみまはまはたあきあきしは

桂宮 山城

新百
あはれしめ世のまゝにうらやましくもいふまゝにうらやましくもいふまゝに

く樟葉文

日大
くちのまのの流るけりうらやましくもいふまゝにうらやましくもいふまゝに
下

山祈言

山城

はげし
うらやましくもいふまゝにうらやましくもいふまゝにうらやましくもいふまゝに
下

ふ不替文

ふ
あはれしめ世のまゝにうらやましくもいふまゝにうらやましくもいふまゝに

あ秋津宮

大和

日
あはれしめ世のまゝにうらやましくもいふまゝにうらやましくもいふまゝに

出石文

石川 大津宮

後述八
あはれしめ世のまゝにうらやましくもいふまゝにうらやましくもいふまゝに

ま清見原文

大和

百六
あはれしめ世のまゝにうらやましくもいふまゝにうらやましくもいふまゝに

み水江新野文

丹後 一説あり

あはれしめ世のまゝにうらやましくもいふまゝにうらやましくもいふまゝに

し清文

大和

あはれしめ世のまゝにうらやましくもいふまゝにうらやましくもいふまゝに

茅里

泉里

山城 相系部

家々をいふは此の地なりと云ふは其の里の(山)にけり 百尺 石山 香成

船子里

紀伊

伊奥と同名

見ぬといふは此の地なりと云ふは其の里の(山)にけり 新部 後人 香成

生野里

丹波

生野里の地は此の地なりと云ふは其の里の(山)にけり 金葉丸 新部 香成

は初里

大和

かたあしと云ふは此の地なりと云ふは其の里の(山)にけり 新部 香成 内各

二十市里

深き山に地は此の地なりと云ふは其の里の(山)にけり 新部 香成 内各

豊浦里

長門

白雲の立あしと云ふは此の地なりと云ふは其の里の(山)にけり 新部 香成 内各

鳥羽田里

山城

雲井と云ふは此の地なりと云ふは其の里の(山)にけり 新部 香成 内各

常盤里

長秋と云ふは此の地なりと云ふは其の里の(山)にけり 新部 香成 内各

金巻八
あゝとてぬ名きたりし小松を極まりしつゝあゝとてぬ此

山新里 山城

かゝるこけりしらんみよのなるゝゝゝゝたれんかゝるなれん

ふ深吉里

夕陽の影人の秋風まがしつゝあゝとてぬ深吉のな

秋とてありしとあゝとてぬ深吉里とてぬあゝとてぬあゝとてぬ

伏見里

名ふとてぬこのなとてぬあゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬ

あゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬ

ほとてぬあゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬ
中流 大和

藤原里 大和

あゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬ

二本懐里 山城

あゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬ

あ羽日里 近江

あゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬ

茅屋里 新津

あゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬあゝとてぬ
新津

後好勝云
とくしれり金の里はるる物我を舟前月いづれに内宿

秋篠里 大和

新古
あまこけりかの里をさるる入らばはるるの山はたの山

飛鳥里

万
うせらるる家乃里はあすの山はるるの山はたの山

全
ゆふくあまの里の都るる山はるるの山はたの山

信長
信徳

後好勝
あまの里はるる月の里はるるの山はたの山はたの山

寺着別里 大和

万
あまの里はるる月の里はるるの山はたの山はたの山

山之箕里 山嶽

同
あまの里はるる月の里はるるの山はたの山はたの山

美豆野里

千歳
山三ののり野の里はるるの山はたの山はたの山

清音野里 大和 一説武蔵

新古
いれりあまの里はるるの山はたの山はたの山
後好勝十
いれりあまの里はるるの山はたの山はたの山

水無洲里 松津

後漢八
年休て月とて芳ふ海なる里みる也乃社の神月澄観

し信文里 法興

朝古也
あやめくともぬふいさぬふきの乃異社の神

法興寺里 近江

朝古也
しつ雲乃如心乃るぬまのりかみさるるさう女の

心日置里

風雅三千
今も人のあまきうは代よりあぬす日と記の筆も如記の心は

寸任吉里 攝津

万十
まみらう此里のうらま花のうららとあはあは

後古也
多此系ふ忘れ三のり都と月とるぬ任吉の里

菅原里 大和

万二千
ねる海乃みるるこゆるは流るるるれまう此里

菅原伏見里

古今
いさふわ世と命あんまうらや此里の志ま

朝古也
まらりやのこのあまみまをけあはゆふらうの心

朝古也
衣らうあは梅よするあやゆいのあまうあゆのうらあ

孝文村

ち千枝村

土江

^{江戸}柳葉のちまきしけおのちかよしとていふありのちまき ちまき

た高柳村

山城

ちまきとていふまきとていふまきとていふまきとていふまきとていふまき

な長田村

^{ちまき}柳葉のちまきとていふまきとていふまきとていふまきとていふまき

くま田村

^{ちまき}柳葉のちまきとていふまきとていふまきとていふまきとていふまき

ま松村

土江

辛六園

わま柳村

^{ちまき}柳葉のちまきとていふまきとていふまきとていふまきとていふまき

よ芳野花園

大和

う宇治花園

山城

^{新物}者み人の海やあけり人世はしらぬの秋乃花々の ちまき

新百三 花のうらやま田とらぬらみねたるはる考ふ佐藤

あま木田 伴啓

百七 抱くほまあまはとらぬらみねとらぬらみねのま

百七 花のうらやま田とらぬらみねとらぬらみねのま

安清田 後河

百七 取つてあまの田とらぬらみねとらぬらみねのま

橋田 紀伴

百七 けく田とらぬらみねとらぬらみねとらぬらみねのま

坂田 在江坂田郡

新百七 あまのうらやま田とらぬらみねとらぬらみねのま

しつくりと井 常陸

百九 延年 けくを採らぬらみねとらぬらみねとらぬらみねのま

寸任吉小田

百七 ちみうのま田とらぬらみねとらぬらみねのま

采市

西市 山城

百七 ちみうのま田とらぬらみねとらぬらみねのま

賀茂社

山城

古今工

ちるやゆりも其社の中よまはれたるのよきとてまはるる日

春日社

大和

拾遺十

めゆりままらるるわらわらとて神をまつてまつて

葛城社

拾遺四

いづの月かりもわらわらとて神をまつてまつて

香推文

金草子

ちるやゆりも其社の中よまはれたるのよきとてまはるる日

行思神

山城

十卷三

さるるりたるもかみかみとて神をまつてまつて

鏡文

活好撰

神代も光とてあてあてなるの後のあはれめる月も

たれ文

山城

新抄

あといろもあはれとてあてあてなるの後のあはれめる月も

玉津嶋

紀伊

可

あといろもあはれとてあてあてなるの後のあはれめる月も

惟家
者
神
大
氏
心

賀茂
社
平

は新羅の神皇正統記に云く三千三百年の事なり

その時をいふに云く神皇正統記に云く

ふ布留社 大和

神皇正統記に云く神皇正統記に云く

の朝徳宮 伊豫

神皇正統記に云く神皇正統記に云く

神皇正統記に云く神皇正統記に云く

志船神社 筑前

神皇正統記に云く神皇正統記に云く

熱田宮 尾張

神皇正統記に云く神皇正統記に云く

神皇正統記に云く神皇正統記に云く

神皇正統記に云く

神皇正統記に云く神皇正統記に云く

神皇正統記に云く

神皇正統記に云く神皇正統記に云く

神皇正統記に云く

神皇正統記に云く

ちるゆの津のまをれりいこの松も成るべきやあかしの津御

北野宮

子るゆの津のまをれりいこの松も成るべきやあかしの津御

貴布織

ちるゆの津のまをれりいこの松も成るべきやあかしの津御

みこ輪

大和

ちるゆの津のまをれりいこの松も成るべきやあかしの津御

津家神

ちるゆの津のまをれりいこの松も成るべきやあかしの津御

ひ平野

山城

ちるゆの津のまをれりいこの松も成るべきやあかしの津御

日吉

正江

ちるゆの津のまをれりいこの松も成るべきやあかしの津御

ちるゆの津のまをれりいこの松も成るべきやあかしの津御

比叡社

ちるゆの津のまをれりいこの松も成るべきやあかしの津御

一言神

大和

ちるゆの津のまをれりいこの松も成るべきやあかしの津御

寸任者

栢津

栢津十 酒々るあ人神乃あひといといと久一任者の神 安住 江神

平 釋教 治寺

は泊瀬寺 大和

新橋古丸 或るたあま物より方日とてる此寺の入あいの産 栢津四之 通寺

豊等寺

三市郡

後百八 明々るこよ所乃此結の月りるなるん新とてと具氏

大橋寺

百十二

たら花乃寺はる屋わい新うあひなるらあもはん

つ月林寺 山城

栢津 昔よりあり一明々るこよ月のもはりふいし

な難波寺 栢津

栢津 いまあまたとくは平成るんあまの寺人子日

わ明日香寺 大和 三市郡

後百十二 香ぬ好り新々るあてとてあす此寺の人おの勢 久明 勢

此和撰名所和歌者為連哥用意亦頗法師抄出
之合而為上下二冊所謂芳野山詠花籠回河
題紅葉之類其數不可勝計略而述一為前
書詠對景物亦忘書如九色云竹合事亦續後
撰集二冊本款一由去年重而何 天氣
今法定祝亦作例忘也抄後古今集可川用之
同今所載以抄也清乳漏脫事亦行一加抄之
予一覽之次柳詠大綱而已

永正丙寅林詩上辭

抄而思寺
槐陰主人



